
Average ~ 平均少女 ~

ハルジオンノート

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Average ～平均少女～

【Nコード】

N0360B

【作者名】

ハルジオンノート

【あらすじ】

これは極めて普通の小向みなみという少女の物語である。

第1話

行ってきますと元気よく家を飛び出したのはよかったが、何だかいつもと違う世界がそこには広がっていた。

いったい何なんだ。このどنگり・・・

私の家の前にはどنگりが並べてあった。

こんなのをうちの親に見せたら確実に私がストーカーなんかに狙われていると勘違いするに違いなのだが。

残念ながら、私は高校に急がなければいけないのだ。

しかし、なぜどنگりなのだろうか？

お金を並べておいてくれれば、遅刻してでも拾ってから行くけど、さすがにどنگりとなると、遅刻するわけにはいかないでしょ。

しかし、世の中には暇な奴がいるものだ。

何時間かけて準備したんだろう。

今日から中間テストだっていうのに、勉強なんてほとんどしていない。

0点は確実だと思う。そういう自信が自分にはある。

だって、何にも勉強していないんだもの。

ある意味、怖いものなんてないさ。

全部0点で、クラスで1番バカと言われようが、私には関係ないよね。

バカはバカなりの人生があるのだから。

私は人間に生まれてこれただけでも十分なんだから。

ある意味、私は無敵。私よりバカな人間出てきなさい。

そして、テストは始まった。

一時間目は数学だった。なんか、難しかったけど選択問題もあって、答えが浮かんでくる

感じがした。不思議な気分だった。少なくとも、クラスでビリにはならない気がした。

二時間目の国語、三時間目の化学ですら楽勝って気がした。何かが私の中に入ってきたみたいだ。

私の中にひとり入って呼吸を始めたような感じ。

そんな感じは一日では終わらなかった。次の日もその次の日も同じ感覚がした。

そして、テストは終わった。

今日は数学のテストが返された、同時に平均点も発表された。

なんと私はまったく理解していない数学で平均点をとってしまった。すごくうれしかった。平均点なんてすごく久しぶりだった。

というか、平均点なんて初めてとった事に気がついた。

平均ってなんてすばらしい言葉なのだろう。

可もなく、不可もなく、私は平均がすごく好きになった。

でも、それは、奇妙な出来事の始まりに過ぎなかった。

第二話

私のテストの点数は全部、クラスの平均点だった。

そういえば、最近、私の体がおかしい。

体重がこの三日間の間に4キロも減ったこと。

急に視力が低下したこと。

顔の輪郭が細くなったこと。

ほかにもたくさんある。

とりあえず、私はどんぐり事件以来何かが変わったことは確かだ。

今日は、この前受けた模試の結果が返された。

私は全教科が平均点だった。5教科全て全国平均だった。

なんか、すごいと思った。ある意味、全て満点よりも

難しいんじゃないかと思った。

私には何かが乗り移った気がした。

何でも、平均が取れると思った。

いつの間にか私にはニッケネームがつけられた。

「平均少女」

私、日向 みなみは平均少女などというくだらないニッケネームをつけられ日々バカにされる毎日です。

私はこれから、平均的な大学に入り、平均的な人と結婚し、

平均的な子供をさずかり、平均的な生活をして

平均寿命で平均的な死に方でこの世を去るのです。

なんて素晴らしい人生でしょう。既に何歳で死ぬかのめどがたつてしまいました。

まだ、私は高校生だっていうのに、未来が見えています。

そういえば、最近になって、変な曲が流行っている。
そう、どんぐりの唄。

「どんぐりの唄」

歌：ドン グリ子

どんどんどん、どんぐり〜 ♪

どんどんどん、メリクリ〜 ♪

どんどんどん、クリクリ〜 ♪

だって、僕らはこの地に生まれた〜 ♪

だって、僕らは昭和に生まれた〜 ♪

だって、僕らはどんぐり集めた〜 ♪

ダ・カ・ラ…

らんらんらん、ランドセル〜 ♪

らんらんらん、ランドマークタワー〜 ♪

らんらんらん、卵白は苦手〜 ♪

だって、僕らはこの地に生まれた〜 ♪

だって、僕らは昭和に生まれた〜 ♪

だって、僕らは黒いランドセル〜 ♪

結局、僕らはお金がなくてね〜 ♪

結局、僕らはお腹がすいてね〜 ♪

結局、僕らは落ちてるどんぐりを食べちゃう〜 ♪

ダ・カ・ラ…

お願い、どんぐりを踏まないで。

お願い、どんぐり食べないで。

お願い、どんぐり捨てないで。

だって、どんぐり、道しるべ。

だって、どんぐり、おいしいもん。

だって、どんぐり、好きだもん。

どんどんどん、どんぐり〜 ♪

どろどろどろ、メロメロ
どろどろどろ、クメクメ
井井井、牛井
井井井、豚井
井井井、天井
だつて、僕らはこの地に生まれた
だつて、僕らは昭和に生まれた
だつて、僕らは井もの大好き

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0360b/>

Average ~ 平均少女 ~

2010年12月10日20時53分発行